

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成26年10月15日

【四半期会計期間】 第27期第1四半期(自 平成26年6月1日 至 平成26年8月31日)

【会社名】 株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション

【英訳名】 Village Vanguard CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 白川 篤典

【本店の所在の場所】 名古屋市名東区上社一丁目901番地

【電話番号】 052-769-1150(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 渡邊 正直

【最寄りの連絡場所】 名古屋市名東区上社一丁目901番地

【電話番号】 052-769-1150(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 渡邊 正直

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第26期 第1四半期 連結累計期間	第27期 第1四半期 連結累計期間	第26期
会計期間	自 平成25年6月1日 至 平成25年8月31日	自 平成26年6月1日 至 平成26年8月31日	自 平成25年6月1日 至 平成26年5月31日
売上高 (百万円)	10,238	11,116	43,689
経常利益又は経常損失() (百万円)	267	128	17
四半期純利益 又は当期純損失() (百万円)	92	17	1,043
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	90	13	1,041
純資産額 (百万円)	13,278	12,027	12,127
総資産額 (百万円)	29,744	31,437	30,282
1株当たり四半期純利益金額 又は当期純損失金額() (円)	11.96	2.25	135.63
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	11.94	2.25	-
自己資本比率 (%)	44.6	38.2	40.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,517	542	3,071
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	330	615	1,905
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,898	1,230	3,620
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	2,028	1,689	1,618

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 当社は、平成25年12月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。このため、第26期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

4. 第26期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

5. 第26期第2四半期連結累計期間より金額の表示単位を千円単位から百万円単位に変更しております。

なお、比較を容易にするため第26期第1四半期連結累計期間についても百万円単位に組替えて表示しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成26年6月1日～平成26年8月31日）におけるわが国経済は、輸出を中心に企業業績は改善基調であるものの、消費税増税前の駆け込み需要の反動により、個人消費の落ち込みが一部で見られ、先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、当社グループは、独創的なワン・アンド・オンリーの空間をお客様に提供し続けることにより、「モノを買う」というニーズを満たすだけでなく、「モノとモノの融合、モノとコトの融合」によって「新しい発見」や「買い物の楽しさ」をお客様に提供することを目指しております。

この方針のもと、当社につきましては、お客様に新しい発見や驚き、楽しさを提供できる空間づくりを目標に、業態別店舗タイプ別の営業施策を推進し、売り場完成度を高めることによるオペレーションの品質向上、またPOSを使用した商品施策の見直しを進め、売上回復とともに、今期より商品在庫の適正化を重点的に進めてまいります。

よりお客様のニーズに沿った品揃えや売場作りに取り組んだ結果、当第1四半期連結累計期間における当社の既存店売上高前年同四半期比は102.0%と、前年同四半期を上回る結果となりました。

店舗展開につきましては、インショップへの出店を中心に推進し、当第1四半期連結累計期間における当社グループでは、直営店8店舗を出店し、直営店12店舗、FC店1店舗を閉鎖しました。その結果、当社グループの当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、直営店525店、FC店13店の合計538店となりました。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高につきましては11,116百万円と前年同四半期と比べ878百万円（8.6%）の増収となりました。利益面につきましては売上高増収の影響により売上総利益は増益したものの、人件費等の販売費及び一般管理費が増加したことから、営業利益123百万円と前年同四半期と比べ154百万円（55.4%）の減益となりました。また、四半期純利益は、17百万円と前年同四半期と比べ74百万円（81.2%）の減益となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

なお、前連結会計年度より報告セグメントを変更しており、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報を変更後の区分に基づき作成し、前年同期比を算出してあります。報告セグメントの変更についての詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等） セグメント情報」の「3 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載しております。

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションは、お客様に買い物を楽しんでいただくため、今までになかった独創的なワン・アンド・オンリーの空間の創造を目指しております。

各店舗では、書籍・SPICE（雑貨類）及びニューメディア（CD・DVD類）等の商材を融合させ、独自の「提案」を展開しております。

主な業態店舗としては、「遊べる本屋」をコンセプトにした「ヴィレッジヴァンガード」、大人も楽しめる空間を演出したライフスタイルショップ「new style」、キッズを中心にファミリー層をターゲットにした「QK」、本格的なアメリカンハンバーガーを提供する飲食店「ヴィレッジヴァンガードダイナー」、食べるコトの楽しさを提案する「HOME COMING」、アウトレット業態「Vintage Vanguard」、若い女性をターゲットとした「exciting girls store」を運営しております。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、8,969百万円と前年同四半期と比べ365百万円(4.3%)の増収となりました。営業利益は67百万円と前年同四半期と比べ105百万円(61.1%)の減益となりました。

なお、店舗数につきましては、直営店4店舗の新規出店、直営店11店舗、FC店1店舗の閉鎖を行い、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、直営店383店舗、FC店12店舗の合計395店舗となりました。

株式会社チチカカ

株式会社チチカカは、主にエスニック雑貨・衣料の企画販売を行っております。エスニックファッションの販売だけでなく、「世界の文化を伝えること」を使命と考え、お客様と生産者の「HAPPY」をつなげることを「HAPPY TRADE(ハッピートレード)」と名付け、世界の仲間と共に成長することを心がけております。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は1,901百万円と前年同四半期と比べ374百万円(24.5%)の増収となりました。営業利益は45百万円と前年同四半期と比べ38百万円(45.9%)の減益となりました。

なお、店舗数につきましては、直営店4店舗の新規出店、直営店1店舗の閉鎖を行い、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、直営店129店舗、FC店1店舗の合計130店舗となりました。

TITICACA HONGKONG LIMITED

TITICACA HONGKONG LIMITEDは、香港において主にエスニック雑貨・衣料の企画販売を行っております。株式会社チチカカ同様、エスニックファッションの販売だけでなく、「世界の文化を伝えること」を使命と考え、お客様と生産者の「HAPPY」をつなげることを「HAPPY TRADE(ハッピートレード)」と名付け、世界の仲間と共に成長することを心がけております。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は124百万円と前年同四半期と比べ40百万円(47.4%)の増収となりました。営業利益は16百万円と前年同四半期と比べ3百万円(17.2%)の減益となりました。

なお、店舗数につきましては増減はなく、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は直営店5店舗となっております。

その他

その他は、株式会社Village Vanguard Webbedにてオンラインでの書籍・SPICE及びニューメディアの販売、Village Vanguard (Hong Kong) Limited及びVillage Vanguard (Taiwan) Limitedにて香港及び台湾での書籍・SPICE及びニューメディアの販売を行っております。

また、比利時(上海)商貿有限公司では、当社グループの生産管理拠点とするほか、上海で直営店を1店舗運営しており、主にエスニック雑貨・衣料の企画販売を行っております。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は250百万円と前年同四半期と比べ164百万円(192.7%)の増収となりました。営業損失は13百万円(前年同四半期は営業損失12百万円)となりました。

Village Vanguard (Hong Kong) Limited及びVillage Vanguard (Taiwan) Limitedは賃貸借契約条件や今後の店舗損益を考慮して順次、事業を撤退することを決定しております。

(2)財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況は、以下のとおりであります。

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて4.0%増加し、24,393百万円となりました。これは、商品が207百万円増加したことなどによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて3.2%増加し、7,044百万円となりました。これは、建物及び構築物が101百万円増加したことなどによるものです。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて3.8%増加し、31,437百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて1.7%増加し、9,906百万円となりました。これは、1年内返済予定の長期借入金が286百万円増加したことなどによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて12.9%増加し、9,503百万円となりました。これは、長期借入金1,088百万円増加したことなどによるものです。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて6.9%増加し、19,410百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて0.8%減少し、12,027百万円となりました。これは、利益剰余金が86百万円減少したことなどによるものです。

(3)キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ70百万円増加し、当連結会計年度末には1,689百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は542百万円となりました。

これは、主に売上債権の増加額562百万円、たな卸資産の増加額205百万円があったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は615百万円となりました。

これは、主に新規出店に伴う有形固定資産の取得による支出が455百万円、差入保証金の差入による支出が110百万円あったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は1,230百万円となりました。

これは、主に長期借入れによる収入が2,130百万円があったものの、長期借入金の返済による支出が754百万円あったためであります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,800,000
計	19,800,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年8月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年10月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,693,600	7,693,600	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	7,693,600	7,693,600		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年8月31日		7,693,600		2,242		2,219

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,690,900	76,909	
単元未満株式	普通株式 2,700		
発行済株式総数	7,693,600		
総株主の議決権		76,909	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が400株含まれております。
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれております。
- 2 当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年5月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

(1) 当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

(2) 当社の四半期連結財務諸表に記載される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、前第2四半期連結会計期間及び前第2四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年6月1日から平成26年8月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年6月1日から平成26年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,646	1,709
受取手形及び売掛金	2,492	3,043
商品	18,659	18,867
繰延税金資産	56	54
その他	602	723
貸倒引当金	4	4
流動資産合計	23,453	24,393
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,624	2,725
機械装置及び運搬具(純額)	0	0
工具、器具及び備品(純額)	1,096	1,086
建設仮勘定	14	13
有形固定資産合計	3,735	3,825
無形固定資産		
ソフトウェア	240	234
その他	2	3
無形固定資産合計	242	238
投資その他の資産		
長期前払費用	273	307
繰延税金資産	38	38
差入保証金	2,536	2,623
その他	1	10
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	2,850	2,980
固定資産合計	6,828	7,044
資産合計	30,282	31,437

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年5月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,877	4,110
短期借入金	900	900
1年内償還予定の社債	20	20
1年内返済予定の長期借入金	2,792	3,079
未払金	956	583
未払法人税等	94	77
未払消費税等	63	148
株主優待引当金	98	75
賞与引当金	116	81
資産除去債務	35	31
その他	782	797
流動負債合計	9,738	9,906
固定負債		
社債	10	-
長期借入金	6,646	7,735
長期未払金	347	325
役員退職慰労引当金	249	248
退職給付に係る負債	242	245
資産除去債務	855	885
その他	64	64
固定負債合計	8,415	9,503
負債合計	18,154	19,410
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,242	2,242
資本剰余金	2,219	2,219
利益剰余金	7,662	7,575
株主資本合計	12,124	12,037
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	12	10
退職給付に係る調整累計額	39	41
その他の包括利益累計額合計	27	31
新株予約権	30	20
純資産合計	12,127	12,027
負債純資産合計	30,282	31,437

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年8月31日)
売上高	10,238	11,116
売上原価	5,890	6,386
売上総利益	4,348	4,730
販売費及び一般管理費	4,069	4,606
営業利益	278	123
営業外収益		
仕入割引	17	5
業務受託料	17	17
為替差益	-	3
その他	12	8
営業外収益合計	47	35
営業外費用		
支払利息	23	29
為替差損	20	-
その他	13	1
営業外費用合計	57	30
経常利益	267	128
特別利益		
移転補償金	9	-
新株予約権戻入益	4	9
特別利益合計	14	9
特別損失		
固定資産除却損	-	10
減損損失	27	35
その他	-	5
特別損失合計	27	51
税金等調整前四半期純利益	254	86
法人税等	162	69
少数株主損益調整前四半期純利益	92	17
四半期純利益	92	17

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	92	17
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1	2
退職給付に係る調整額	-	1
その他の包括利益合計	1	4
四半期包括利益	90	13
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	90	13
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	254	86
減価償却費	176	187
減損損失	27	35
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	4
売上債権の増減額(は増加)	1,138	562
たな卸資産の増減額(は増加)	1,173	205
仕入債務の増減額(は減少)	199	230
その他	17	206
小計	1,671	429
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	22	29
法人税等の支払額	822	84
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,517	542
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	262	455
無形固定資産の取得による支出	13	4
差入保証金の差入による支出	67	110
差入保証金の回収による収入	-	15
その他	12	59
投資活動によるキャッシュ・フロー	330	615
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,031	-
長期借入れによる収入	1,600	2,130
長期借入金の返済による支出	558	754
社債の償還による支出	10	10
長期未払金の増減額(は減少)	56	27
配当金の支払額	107	107
その他	-	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,898	1,230
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	1
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	947	70
現金及び現金同等物の期首残高	2,975	1,618
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,028	1,689

【注記事項】

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)および「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文および退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務および勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間および支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務および勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が3百万円減少し、利益剰余金が3百万円増加しております。なお、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年6月1日 至 平成26年8月31日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果をなる場合には、税引前四半期純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成25年6月1日 至 平成25年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成26年6月1日 至 平成26年8月31日)
現金及び預金	2,048百万円	1,709百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	20 "	20 "
現金及び現金同等物	2,028百万円	1,689 百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年6月1日 至 平成25年8月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年8月23日 定時株主総会	普通株式	107	1,400	平成25年5月31日	平成25年8月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年6月1日 至 平成26年8月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年8月22日 定時株主総会	普通株式	107	14	平成26年5月31日	平成26年8月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年6月1日至平成25年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 財務諸表計上額 (注)2
	㈱ヴィレッジヴァンガード コーポレーション	㈱チチカカ	TITICACA HONGKONG LIMITED	その他 (注)3			
売上高							
外部顧客への売上高	8,562	1,508	84	82	10,238		10,238
セグメント間の内部 売上高又は振替高	40	17		3	61	61	
計	8,603	1,526	84	85	10,300	61	10,238
セグメント利益又は損失 ()	173	83	19	12	263	14	278

(注)1. セグメント利益の調整額14百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他」の区分は、Village Vanguard (Hong Kong) Limited、株式会社Village Vanguard Webbed、Village Vanguard (Taiwan) Limited、比利ヰヰカ(上海)商ヰヰ有限公司が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年6月1日至平成26年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 財務諸表計上額 (注)2
	㈱ヴィレッジヴァンガード コーポレーション	㈱チチカカ	TITICACA HONGKONG LIMITED	その他 (注)3			
売上高							
外部顧客への売上高	8,969	1,860	124	161	11,116		11,116
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	40		88	128	128	
計	8,969	1,901	124	250	11,245	128	11,116
セグメント利益又は損失 ()	67	45	16	13	115	8	123

(注)1. セグメント利益の調整額8百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「その他」の区分は、Village Vanguard (Hong Kong) Limited、株式会社Village Vanguard Webbed、Village Vanguard (Taiwan) Limited、比利ヰヰカ(上海)商ヰヰ有限公司が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度より、従来「その他」に含まれていた「TITICACA HONGKONG LIMITED」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、当第1四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成しており、前連結会計年度の第1四半期連結累計期間に開示した報告セグメントとの間に相違が見られます。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年6月1日 至平成25年8月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年6月1日 至平成26年8月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	11円96銭	2円25銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	92	17
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	92	17
普通株式の期中平均株式数(株)	7,693,600	7,693,600
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	11円94銭	2円25銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	92	17
普通株式増加数(株)	12,800	9,068
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、当連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当社は、平成25年12月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年10月15日

株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安藤 泰行 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 村井 達久 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーションの平成26年6月1日から平成27年5月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年6月1日から平成26年8月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年6月1日から平成26年8月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション及び連結子会社の平成26年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。